



いぬい まさよし
乾 全良 さん

乾全良さんは大字茅原にある乾製麺所の11代目社長です。乾製麺所は令和6年度の「奈良県100年企業顕彰」に桜井市内の企業で唯一選出されました。乾さんは、卸売業にとどまらない、製麺所の新しい形を追及し続けています。

桜井市はそうめん発祥の地。乾さんはかつて桜井市には多くの製麺所があったと当時を振り返ります。しかし、お中元文化の縮小と共に数を減らし、現在では乾さんが製麺所を継いだころと比べ、半分程度の数になっているといいます。このようにそうめんの販売量が減少することを予見していた乾さんは「自分の中で最善を尽くす」という信念のもと乾製麺所の生き残りに動きました。

乾製麺所のそうめん製造では安定した品質を実現させるため、長年の経験に加え、湿度計や水分計などの機器を取り入れています。また、経営者としても現状に満足しない姿勢を貫き、飲食店経営やインターネット販売など多様な事業に挑戦しています。こうしたそうめん製造への謙虚な姿勢と、将来を見据えた挑戦心が、原動力となり、乾製麺所が100年以上続く企業となったのです。

乾さんは「この先、経営を続けるためには三輪そうめん業界全体で協力して活気づける必要がある」と語ります。100年企業の信念が三輪そうめん業界全体のさらなる発展へとつなげます。

共に生きる

～「いじり」と「いじめ」の境界線～

私が中学生のとき、いわゆる「いじられキャラ」でほぼ毎日のようにクラスの男子から「いじり」を受けていたA君がいました。A君は笑顔で対応していて、私もその「いじり」を不快に思うことはなく、単なるコミュニケーションだと思っていました。

ある日の放課後、クラスの男子全員が集められ、生徒指導の先生に「A君に対して集団で侮辱し、いじめをした者がいる。心当たりのある者は名乗り出なさい」と言われました。A君は当時のことを「毎日のようにばかにするようなことを言われ、耐えられなくなった。最初のころは笑ってごまかしていたけど、限界だった」と話しました。A君にとってその「いじり」は単なるコミュニケーショ

ンではなく、言葉の暴力そのものだったのです。私はいじめに消極的に加担していたことを悔いてA君に謝罪しました。また、「いじり」と「いじめ」について、深く考える出来事になりました。

一般的に「いじり」は、相手と対等な関係であり互いの信頼関係が十分に築けているなかで行われるものとされています。これに対して、一方的に相手をばかにしていたり、互いの信頼関係が欠如していたり、相手が傷ついていたたりする場合は「いじり」ではなく「いじめ」であるとされています。

コミュニケーションを取るときは、相手を思いやり、尊重し健全な関係を築いていくことが大切です。